

石川県九谷焼美術館 Q&A

- Q 作品鑑定はしていますか？または、家にある焼物が何なのかを見てもらいたいのですが。
- A 作品の鑑定のようなことはしていません。お電話でもお答えできませんし、作品を持参されることもご遠慮ください。
- Q 現代九谷（現在、活躍中の作家）に関する事は、どこに問い合わせれば良いですか？
- A 石川県には現代の九谷焼産地6組合の連合組織として、また作家関係4団体の活動を側面から支援する団体として、石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会があります。そちらへご連絡ください。電話：0761-57-0125
- Q 家にある九谷焼を寄付したいのですが、引き取ってもらえますか？
- A 当館の蒐集方針、規定に合致するものかどうかを判断した上で手続きを進めることとなりますので、全てをお受け取りできるとは限りません。
- Q 石川県九谷焼美術館の開館年はいつで、設計者は誰ですか？
- A 平成14（2002）年で、象設計集団の富田玲子氏です。
- Q 九谷焼の発祥の地はどこですか？
- A 九谷焼の発祥の地は、現在の石川県加賀市です。加賀市は、現在とほぼ同じ面積範囲が、江戸時代には前田家が治める大聖寺藩でした。江戸時代の前期、大聖寺藩領内の九谷村（現在は九谷町）という場所で初めて焼物が作られ、それは九谷焼や大聖寺焼と呼ばれました。江戸時代の後期になり、これらの最も初期に作られた九谷焼を古九谷と呼ぶようになりました。当館は、九谷焼の発祥の地、加賀市（旧大聖寺藩城下町の一角）にたたずむ、日本で唯一の九谷焼の専門美術館（登録博物館）です。
- Q 江戸時代の九谷焼の技術は、現在の加賀市（大聖寺藩）からどのように広がっていったのですか？
- A 江戸時代の前期、現在の加賀市を発信源とした九谷焼は、江戸時代の後期になり、現在の小松市、金沢市、能美市、能登の各地域にその技術が伝播していきました。さらには、湖東焼、洪草焼、三国焼、三田焼、万古焼など、全国各地に技術的な影響を与えました。
- Q 「古九谷伊万里論」とは何ですか？
- A 「古九谷伊万里論」とは、昭和に入り一部で唱えられ、平成以降、多くの人が物事の真偽や内容を疑わずに支持するようになった「古九谷は有田産である」という一つの主張であり、一つの説です。ただし、歴史研究において決定というものはなく、何事も、数ある主張の全てを客観的に提示し、議論を重ねることが重要です。当館及び石川県立美術館をはじめ、石川県を中心とした周辺の館のほとんどは、九谷焼の産地でもあり、九谷焼に十分な理解があるという理由から、「古九谷は九谷産である」という立場を取っています。そのため、全国各地で古九谷が展示される際には、展示する館によりその産地表記（窯）が異なるという現象が起きているのです。古九谷伊万里論についての所見や、「古九谷が九谷産である」ことの傍証等々については、当館既発行の2018年以降に発行された図録や紀要に、折に触れてまとめられていますので、ご覧ください。

Q 古九谷、再興九谷など、その九谷焼がどこの窯で作られたかを、どのように見分けるのですか？

A 古美術作品には、わずかですが、作品本体に年記名のあるもの、収められている元箱に墨書のあるものがあります。それらの作品を基準資料として、新出作品との比較検討をします。さらに、古来より「これが吉田屋だ」「これが松山だ」等々と言われて伝世してきた作品があります。それらのすべての情報を統合して、判断します。

Q 「福」と裏面に書かれた茶碗（皿など）がありますが、いつ頃のものでしょうか？

A 古九谷以降、現代九谷まで全ての時代で「福」は見られますので、「福」があるかどうかは、制作時代の判断基準とはなりません。

Q 「九谷」と裏面に書かれた茶碗（皿など）がありますが、いつ頃のものでしょうか？

A 明確な線は引けませんが、幕末には「九谷」銘の九谷焼がありますので、それ以降ということになります。

Q 「青九谷」とは何ですか？

A 再興九谷のどの窯にも所属しないような幕末明治期の九谷焼を言います。

Q 「青手」の読み方は何ですか？

A 「読み」に正解はないですが、当館では「あおて」としています。その他の文言も同様に、決まりはありません。

Q なぜ、九谷焼に使われている色は五色なのですか？

A 江戸時代の九谷焼でも実際には五色（赤・緑・紫・紺青・黄）だけでなく、それ以外の色（黄緑色、水色、金色、銀色等）も、わずかですが使われている場合があります。現代ではより多くの色が使われています。色は鉱物を発色材としています。江戸時代の九谷焼で、主に五色が使われている理由は、当時の使える主たる鉱物が生み出した結果です。

Q 吸坂焼とは何ですか？見ることは出来ますか？

A 吸坂焼にはいくつかの時代区分があり、古九谷の前後に作られた吸坂焼、古九谷の窯で作られたいわゆる吸坂手古九谷、その後の再興吸坂焼と分けられます。当館でも随時、吸坂焼の展示をします。

Q 九谷焼の原料は、今でも九谷村で取れますか？

A 原料と一口には言っても、様々な鉱物を配合して九谷焼は出来るのですが、主たる原料である陶石は現在でも九谷村（現在は町）やその周辺の真砂村（現在は町）、杉の水村（現在は町）等で取れます。質や利便性の問題で、現在は使用されていないだけです。当館の入り口ホールにある柱は、真砂村で採取されたものを使い、当館開館時に焼いたものです。

Q 九谷焼が出来るまでの行程や時間はどのようなものですか？

A 陶芸に関する理論と技術、技能を修め将来の九谷焼を担う優れた人材と産業界に即応できる技能者を養成するとともに、デザインの商品開発と研究指導を行っている石川県立九谷焼技術研修所に問い合わせください。
電話：0761-57-3340

Q 現代作家の九谷焼作品はどこで買えますか？

A 当館の2階には、現代作家の展示販売コーナーがあり、常時100点ほどの作品が並べられています。2か月に一度、全作品を入れ替えます。

Q 館内では飲食は出来ますか？

A 当館の2階には、喫茶コーナーの「茶房古九谷」があり、そこで飲み物が提供されております。ロールケーキ、上生菓子、レアチーズケーキ等の軽食があります。いずれも有料です。メニューの変更もありますので、詳しくは、「茶房古九谷」にお問い合わせください。電話：0761-72-6366
なお、「茶房古九谷」以外の場所での持ち込みの飲食は、不可です。

Q 館内作品の写真撮影はしても良いですか？

A 「接写」、「フラッシュを使う」、「他の鑑賞者の迷惑になる」、「自撮り棒の使用」等々の場合は不可ですが、「風景としての撮影」程度であればOKです。なお、書籍や動画等の取材、学校教育での撮影の場合は、別途申請が必要です。

Q 喫煙は出来ますか？

A 館内及び敷地内での喫煙は、全て不可です。